



緑内障と診断された患者さんの ご家族のかたへ



● 緑内障はどんな病気？

緑内障は、何年も何十年もかけて少しずつものが見えにくくなる病気です。疫学調査の結果より、**40歳以上の日本人の20人に1人は緑内障**であることがわかっており、決して稀な病気ではありません。

治療をせずに放置しておく、最悪の場合は失明にいたることもあり、現在、緑内障は日本人の**視覚障害の原因疾患の第1位**となっています。

緑内障になると、患者さんの視野（見える範囲）は、長い時間をかけてゆっくりと欠けていきます。

視野が欠けはじめても、見えない部分が黒く見えたりするわけではないので、患者さん自身は**かなり進行するまで症状を自覚できません**。

自覚症状がなくても視野の欠損は進行し、いったん欠けてしまった視野は治療をしても手術をしても元には戻りません。

● 緑内障の治療は？

一般的な緑内障治療では、**眼圧を下げる目薬を毎日点眼**します。ただし、点眼を忘れると、十分な治療効果が得られず、視野の欠損が進行する可能性があります。

しかし、患者さんにとっては、**自覚症状がないのに毎日点眼し続けるのはとても大変なこと**です。

また、普段は忘れずに点眼をしている患者さんでも、忙しかったり、急な外出などがあったりすると、ついつい点眼を忘れてしまうことがあるかもしれません。



● ご家族のみなさんへお願い

「今日の点眼、忘れてない？」

「点眼液はまだ残っている？」

「次の診察日、もうすぐだね。」

こんなふうに患者さんに声をかけ、毎日の点眼を応援してあげてください。

ほかにも、こんな工夫をすることで患者さんの毎日の点眼をサポートできます。

■ いつ点眼するかを決める

医師の指示に合わせて点眼のタイミングを決めましょう。
(起床時、顔を洗うとき、入浴前、食後など)

■ 目薬をどこに置くか決める

洗面所やリビングなど、常に目につくところがおすすです。

■ 点眼を忘れていたら家族みんなで声をかける

点眼したらカレンダーなどに印をつけ、
患者さんの毎日の点眼状況を家族みんなが分かるようにしておきましょう。

■ 次の診察日をご家族みんなの目につくところに書いておく

患者さんと、そしてご家族のかたの
豊かな人生のために。



